

Outlook お助けマクロ

使い方ガイド

2026/08/17 一部加筆修正
2023/12/15 一部加筆修正
2023/11/25 全体的に加筆修正
2021/05/14 一部加筆修正
2021/04/30 一部加筆修正
2021/04/22 一部加筆修正
2021/04/11 一部加筆修正
2021/04/02 全体的に加筆修正
2021/03/24 迷惑メールの URL 表示を反映
2021/03/22 迷惑メールの仕分けを反映
2021/03/13 未読メールの巡回を一部修正
2021/03/10 未読メールのカウントの時短を反映
2021/03/08 初版発行

目次

今回の変更点	2
マクロの説明	2
Outlook の設定	3
旧版をお使いの方へ	5
迷惑メールの仕分け	6
代理メールの仕分け	7
アドレスによるメールの仕分け	8
表題によるメールの仕分け	8
未読メールのカウント	9
未読メールの巡回	9
迷惑メールの転送	10
迷惑メールのフォルダ移動	10
メールフォルダーID の表示	11
アンインストール	11

今回の変更点

1. 登録していないメールアドレスは、全て迷惑メールフォルダーに仕分けするようにした。
2. 迷惑メールの URL 表示マクロを廃止にした(Module6/dispLinks())。
3. 選択したメールを迷惑メール⇄受信フォルダに移動させるマクロを作成した(Module6/moveSpamMail())。

マクロの説明

- 迷惑メールの仕分け

迷惑メールの中のフィッシング詐欺メールを、幾つかの情報を元に仕分けるマクロを作成した(自動:ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()、手動:Module2/sortMails())。

- 代理メールの仕分け

特に楽天ショップの場合、楽天経由でメールを出すようで、「address1 が代理で送信 : address2」という送信元になっている。address1 は楽天のメールサーバーのようで、ショップとは無関係のアドレスになっている。address2 がショップのメールアドレスで、これを指定して仕分けしたいのだが、設定はできない。そこで、address2 を取得し、仕分けするマクロを作成した(自動:ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()、手動:Module2/sortMails())。

因みに、address2 は SentOnBehalfOfName で取得できる。これを表示するマクロも作成した(Module1/dispSentOnBehalfOfName())。

尚、タイミングの問題で、自動仕分けされないことがあるので、一度は手動仕分けの実施をお薦めする。

- 未読メールのカウント

メール読み込み後、自動仕分けされると、未読メールの総数が判らない。この為、未読メールをカウントしてくれるマクロを作成した(Module3/countUnread())。

- 未読メールの巡回

全てのフォルダーの未読メールを既読にしながら巡回するマクロを作成した(Module4/nextUnread())。尚、既読にしないと、そのメールから先には巡回しない。(何度実行しても同じメールが表示される)

- 迷惑メールの転送

迷惑メールは自分で判断し、迷惑メールフォルダーへ移動する。ある程度溜まったら(10通前後)、meiwaku@dekyo.or.jp へ転送する必要がある。そこで、迷惑メールフォルダーにある全てのメールを選択し、転送メールを作成してくれるマクロを作成した(Module5/forwardSpams())。

- 迷惑メールのフォルダ移動

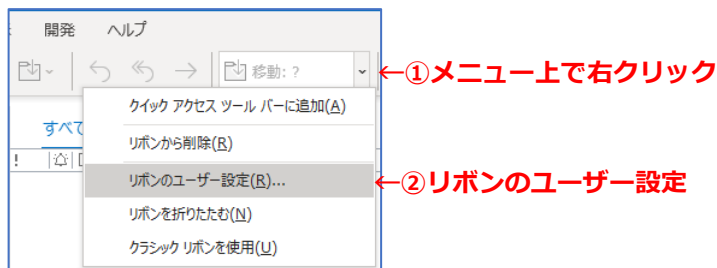
選択したメールを迷惑メール⇄受信フォルダに移動させるマクロを作成した(Module6/moveSpamMail())。

- メールフォルダーID の表示

代理メールの仕分け機能を使うには、仕分け先のフォルダーIDを調べ、GetFolderFromID()で指定する必要がある。そこで、これを表示するマクロを作成した(Module7/dispFolderID())。

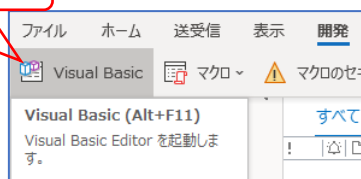
Outlook の設定

1. Outlook で始めてマクロを使う場合、マクロを使えるようにする必要がある。

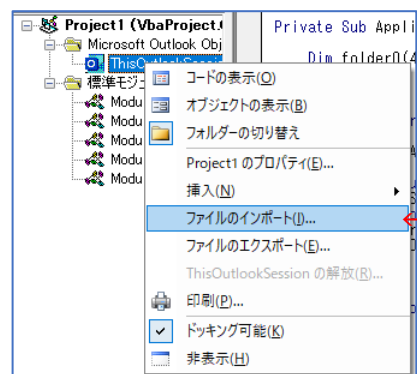
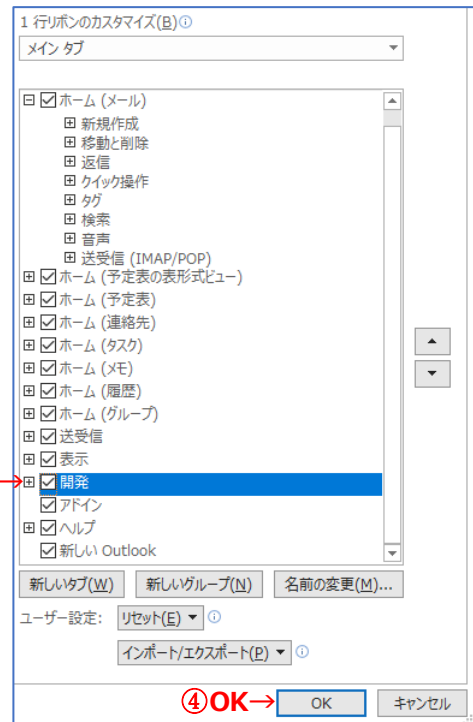


2. 次に、本マクロの設定である。

①Visual Basic Editor を起動



③開発



②ファイルのインポート

- ThisOutlookSessionxxxxxxx.cls
- Module0_xxxxxxxx.bas
- Module1_xxxxxxxx.bas
- Module2_xxxxxxxx.bas
- Module3_xxxxxxxx.bas
- Module4_xxxxxxxx.bas
- Module5_xxxxxxxx.bas
- Module6_xxxxxxxx.bas
- Module7_xxxxxxxx.bas

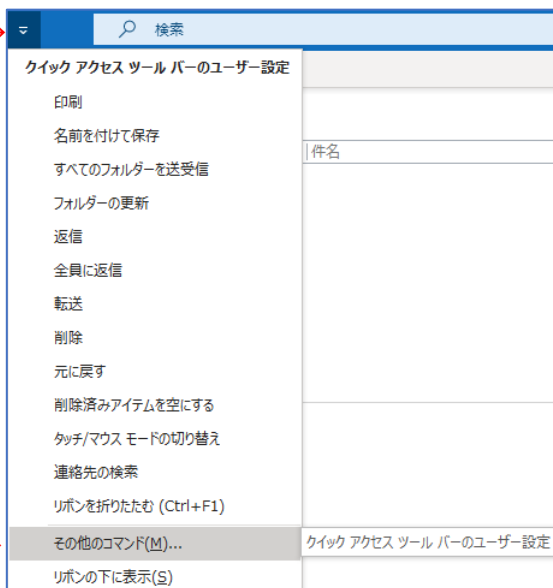
3. ThisOutlookSession.cls を読み込むと、クラスモジュールの下に、ThisOutlookSession ができる。この中身を、Microsoft Outlook Objects の下の ThisOutlookSession に移動する。

4. クラスモジュールの下の ThisOutlookSession を解放する。

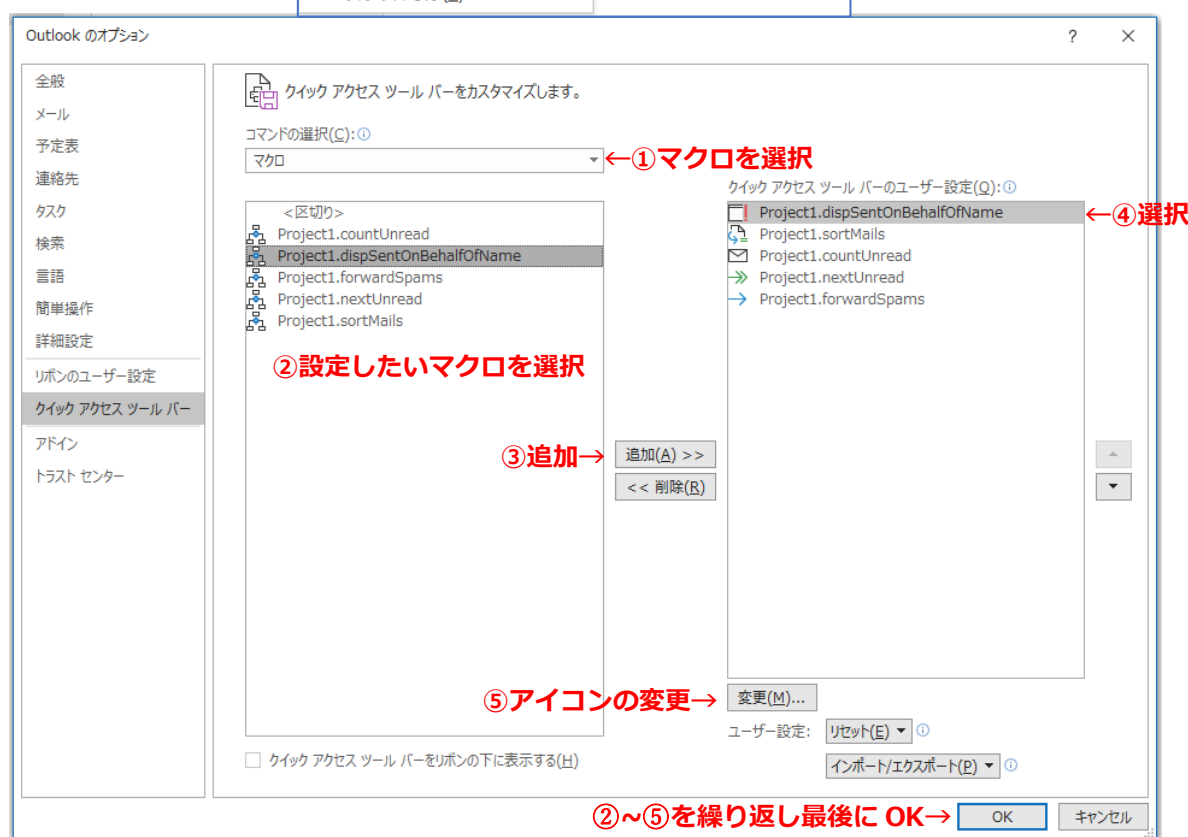
- 既に、ThisOutlookSession を使っていた場合、最後に追加する。
- 既に、Application_NewMailEx() を使っていた場合、1 つに合成する。

5. クイックアクセスの設定

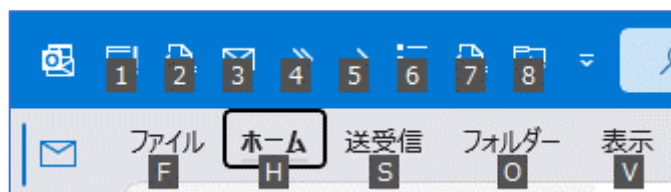
下三角印をクリック→



その他のコマンド→



メール参照時、Alt キーを打つと、以下のように表示されるので、続いて該当する数字を打つと、マクロが実行される。



以上で準備完了である。

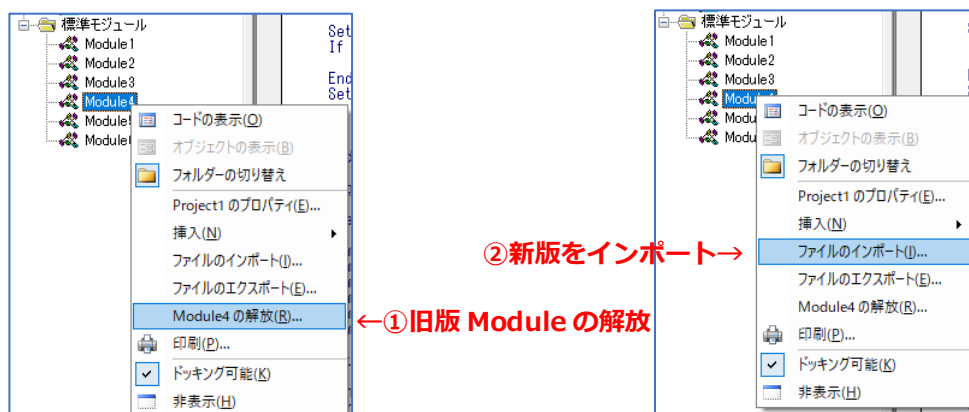
旧版をお使いの方へ

各モジュールのファイル名に日付を振ってある。旧版と比較し、

- 旧版にないものは新規追加。通常のインポートで良い。
- 日付が新しいものは機能更新。差し替えが必要。
- Module6 は dispLinks() から moveSpamMail() に差し替えが必要。

1. ThisOutlookSession/Application_NewMailEx() は新規時の設定手順と同じ。

2. Module2/sortMails() 以外は、



3. Module2/sortMails() の場合、

②旧版から setSortAddr() と setSpamAddr() をコピー→

```
MsgBox "Complete !", vbInformation

End Sub

Public Sub setSortAddr(folder0() As Object, addr0() As String)
    addr0(0) = "サンワダイレクト"
    Set folder0(0) = getFolderID(Session, "サンワダイレクト")
    addr0(1) = "エレコム"
    Set folder0(1) = getFolderID(Session, "エレコム")
    addr0(2) = "楽天カード"
    Set folder0(2) = getFolderID(Session, "楽天KC")
    addr0(3) = "Joshin"
    Set folder0(3) = getFolderID(Session, "Joshin")
    addr0(4) = "Amazon.co.jp"
    Set folder0(4) = getFolderID(Session, "Amazon")
End Sub

Public Sub setSpamAddr(folder1 As Object, addr1() As String)
    Set folder1 = getFolderID(Session, "saikou_m")
    Set folder1 = getFolderID(folder1, "迷惑メール")

    addr1(0) = "raktuen.co.jp.rktln.com"
    addr1(1) = "rakuten.co.xymu.cn"
    addr1(2) = "raktuen-jp.club"
    addr1(3) = "raktuen-jp.cyou"
    addr1(4) = "raktuen-jp.buzz"
    addr1(5) = "raktuen-jp.shop"
    addr1(6) = "raktuen-jp.online"
    addr1(7) = "raktuen-i.com"
    addr1(8) = "127.0.0.1"
    addr1(9) = "www.nyetherwall.letm.cc"
    addr1(10) = "www.nyetherwall.ets.vip"
    addr1(11) = "www.nyetherwall.let.com"
    addr1(12) = "cr-mufg.jp-nvchi.com"
    addr1(13) = "www.cr-mufgcard.top"
    addr1(14) = "www.cr-mufgcarb.top"
End Sub

Private Function getFolderID(folder0 As Object, folderName As St
```

④新版を Module2 に変更

getFolderID() から GetFolderFromID() への変更は、「代理メールの仕分け」を参照。

迷惑メールの仕分け

メールを検索し、迷惑メールフォルダーへ移動してくれるマクロ。以下のようにして判断している。

- 予め登録されているメールアドレス(**addr0()**で指定)以外だった場合、迷惑メールと判断
- 件名に無関係のカード名や文言(**subj0()**で指定)がある場合、迷惑メールと判断
- 不正の本文の文言(**letter1()**で指定)がある場合、迷惑メールと判断
- リンク表示とリンク先が違う場合、迷惑メールと判断
- 本文の文言に不正サイトのリンク(**addr1()**で指定)がある場合、迷惑メールと判断
- 本文の文言の全てのリンクが正解(**addr3()**で指定)である場合、例外と判断
- 不正サイトの URL の国名(**addr2()**で指定)がある場合、迷惑メールと判断

以下、そのための設定だが、これは個人によって違うため、個別修正が必要である。

1. Module2/sortMails()を開き、配列の添え字を修正し、迷惑メールのフォルダーID を指定する。

また、各配列に上記設定を施す。

```
Sub sortMails()  
  
    Dim addr1(2) As String  
    Dim addr2(20) As String  
    Dim addr3(24) As String  
    Dim subj0(38) As String  
    Dim letter1(27) As String
```

```
Public Sub setSpamAddr(folder1 As Object, addr1() As String  
  
    '迷惑メール  
    Set folder1 = Application.Session.GetFolderFromID("EntryID",  
"StoreID")  
  
    addr1(0) = "http"  
    addr1(1) = "127.0.0.1"  
  
    '国  
    addr2(9) = ".net"  
  
    '除外  
    addr3(19) = "rakuten.net"  
    'Subject  
    subj0(0) = "【TS CUBIC CARD】"  
  
    '不正  
    letter1(3) = "カードのご利用を一部制限させていただきます"
```

[こちらへ追加していく](#)

EntryID と StoreID は調べる必要がある。この為、これを表示するマクロ(Module7/ dispFolderID ())を用意した。

2. Visual Basic Editor を起動し、ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()を開き、これを修正する。
配列の添え字を修正し、受信トレイのフォルダーID を指定する。

```
Private Sub Application_NewMailEx(ByVal EntryIDCollection As String)

    Dim addr1(2) As String
    Dim addr2(20) As String
    Dim addr3(24) As String
    Dim subj0(38) As String
    Dim letter1(27) As String

    '受信トレイ
    Set folder2 = Application.Session.GetFolderFromID("EntryID",
"StoreID")
```

代理メールの仕分け

メールの送信元表示が、「address1 が代理で送信：address2」になっているメールの仕分けをしてくれるマクロ。
Outlook の仕分け機能では、address1 しか見えず、ショップのアドレスである address2 は指定できない。

1. マクロ(Module7/dispFolderID())を使って、仕分け先のフォルダーID を取得する。
2. 仕分けされずに残ったメールに対して、SentOnBehalfOfName を表示するマクロ
(Module1/dispSentOnBehalfOfName())を使って、address2 を取得する。
3. メッセージボックスで表示されるが、Visual Basic Editor を起動すると、イミディエイトウィンドウにも表示される。Module2/sortMails()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Sub sortMails()

    Dim folder0(0) As Object
    Dim FID0(0) As String
    Dim addr0(0) As String
```

また、folder0()はフォルダー数分、addr0()と FID0()は1組としてコピーし、""の中身を修正する。

```
Public Sub setSortAddr(folder0() As Object, addr0() As String)

'Infoseek
    Set folder0(4) = Application.Session.GetFolderFromID("EntryID", "StoreID")
    FID0(4) = 4

    addr0(4) = "メール de ポイント"
    FID0(5) = 4
    addr0(5) = "楽天特典付きキャンペーンニュース"
```

ここで、

- addr0()の方は、Module1/dispSentOnBehalfOfName()の結果を参考にし、検索対象文字列を指定する。
- folder0()の方は、イミディエイトウィンドウでのModule7/dispFolderID()の結果をコピーする。

4. ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Private Sub Application_NewMailEx(ByVal EntryIDCollection As String)

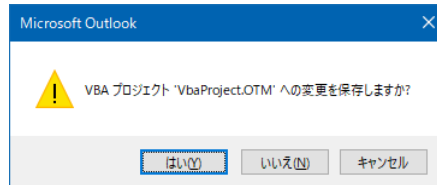
    Dim folder0(0) As Object
    Dim FID0(0) As String
    Dim addr0(0) As String
```


ここで、

- ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()はメール読み込み時に自動実行されるマクロ。
- Module2/sortMails()は表示されているフォルダーのメールに対して手動で実行されるマクロ。

メールの読み込みのタイミングにより、前者が上手く動かない場合がある。その場合、後者を実行し、それでも仕分けされないメールに対し、上記修正を追加していく。修正後は再立ち上げの必要は無く、直ぐに使える。

Outlook 終了後、VbaProject.OTM の変更を保存するか聞いてくるので、**必ず保存すること**。



アドレスによるメールの仕分け

メールアドレスでメールの仕分けをしてくれるマクロ。Outlook の仕分け機能では、メールアドレス単位でしか指定できないが、本マクロでは、ドメイン名でも指定できる。

1. マクロ(Module7/dispFolderID())を使って、仕分け先のフォルダーID を取得する。
2. Module2/sortMails()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Sub sortMails()  
  
    Dim folder0(0) As Object  
    Dim FID1(0) As String  
    Dim addr4(0) As String
```

また、folder0()はフォルダー数分、addr4()と FID1()は1組としてコピーし、""の中身を修正する。

```
Public Sub setSortAddr(folder0() As Object, addr0() As String)  
  
    'Infoseek  
    Set folder0(4) = Application.Session.GetFolderFromID("EntryID", "StoreID")  
    FID1(1) = 4  
    addr4(1) = "*@*kodansha.co.jp"
```

ここで、folder0()の方は、イミディエイトウィンドウでの Module7/dispFolderID()の結果をコピーする。

3. ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Private Sub Application_NewMailEx(ByVal EntryIDCollection As String)  
  
    Dim folder0(0) As Object  
    Dim FID1(0) As String  
    Dim addr4(0) As String
```

表題によるメールの仕分け

表題でメールの仕分けをしてくれるマクロ。Like を使って判定するので、ワイルドカードが使える。

1. マクロ(Module7/dispFolderID())を使って、仕分け先のフォルダーID を取得する。

2. Module2/sortMails()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Sub sortMails()  
  
    Dim folder0(0) As Object  
    Dim FID2(0) As String  
    Dim subj1(0) As String
```

また、folder0()はフォルダー数分、subj1()と FID2()は1組としてコピーし、""の中身を修正する。

```
Public Sub setSortAddr(folder0() As Object, addr0() As String)  
  
    'Infoseek  
    Set folder0(5) = Application.Session.GetFolderFromID("EntryID", "StoreID")  
    FID2(1) = 5  
    subj1(1) = "購入*ありがとう"
```

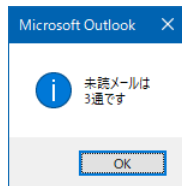
ここで、folder0()の方は、イミディエイトウィンドウでのModule7/dispFolderID()の結果をコピーする。

3. ThisOutlookSession/Application_NewMailEx()を開き、配列の添え字を修正する。

```
Private Sub Application_NewMailEx(ByVal EntryIDCollection As String)  
  
    Dim folder0(0) As Object  
    Dim FID2(0) As String  
    Dim subj1(0) As String
```

未読メールのカウント

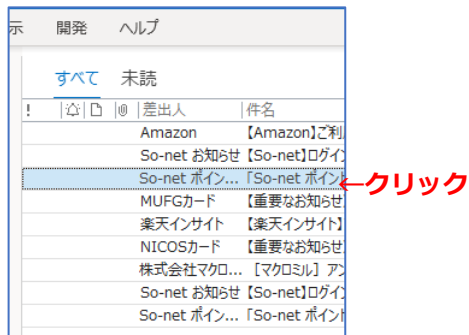
未読メールの総数をカウントしてくれるマクロ。



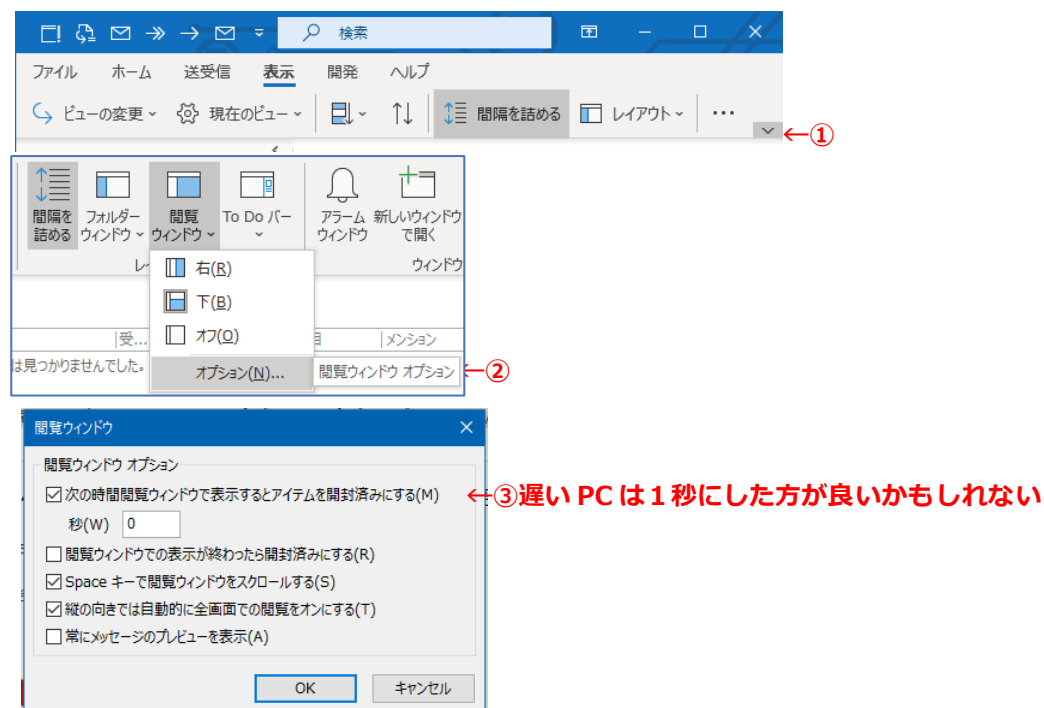
未読メールの巡回

全てのフォルダーの未読メールを既読にしながら巡回するマクロ。

- 既読にしないと、そのメールから先には巡回しない。(何度実行しても同じメールが表示される)
- マクロでポイントすると、一時的な状態になるようだ。メール一覧内のそのメールをクリックすると、通常の状態に戻るようだ。メールの中身を確認したいときは、これを使うと良い。

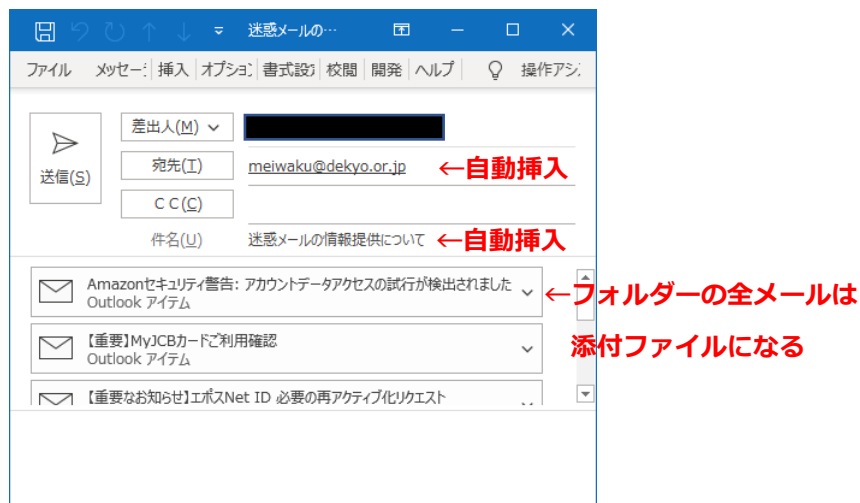


メールの中身を閲覧ウィンドウに表示したら既読にするには、以下の設定を行なう。



迷惑メールの転送

迷惑メールを meiwaku@dekyo.or.jp へ転送するメールを作成してくれるマクロ。迷惑メールフォルダーを選択し、マクロを実行する。



内容を確認後、送信。その後、迷惑メールフォルダーにあるメールは全て選択済みなので、Delete キーを押せば、削除済みアイテムフォルダーへ移動できる。

迷惑メールのフォルダ移動

迷惑メールフォルダーで実行すると、選択したメールを受信フォルダに戻す。迷惑メールフォルダー以外で実行すると、迷惑メールフォルダーに移動する。これにより、デバッグが少し楽になる。

メールフォルダーID の表示

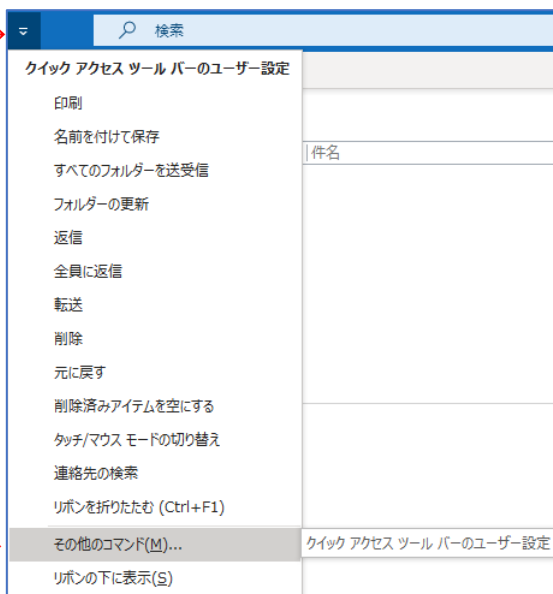
GetFolderFromID("EntryID", "StoreID")でフォルダーID が取得できるが、そのためには、EntryID と StoreID の取得が必要である。これを表示してくれるマクロ。取得したいフォルダーを選択し、実行すると、メッセージボックスで表示される。また、イミディエイトウィンドウには、Application.Session.GetFolderFromID("EntryID", "StoreID")の形で表示されるので、そのまま Visual Basic Editor 上に貼り付けられる。

アンインストール

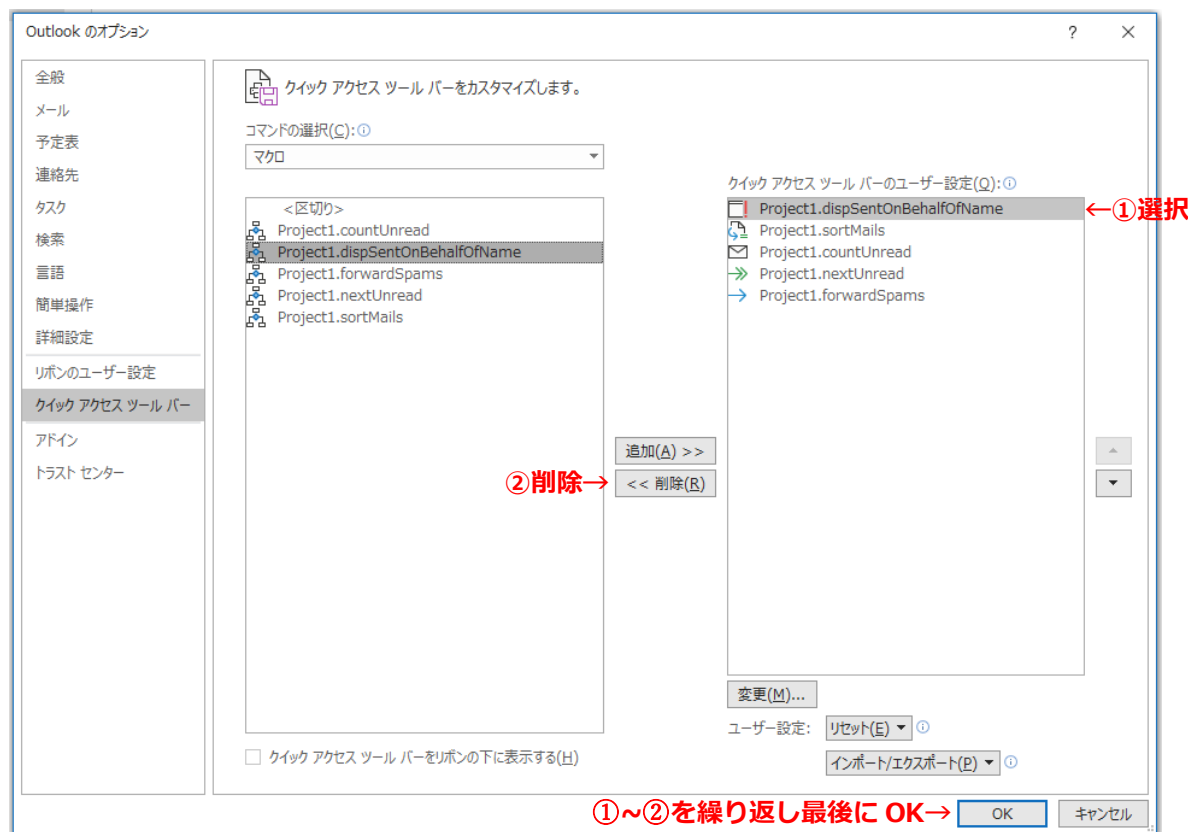
本マクロをアンインストールするには、インストールを逆に辿れば良い。

1. クイックアクセスの設定削除

下三角印をクリック→

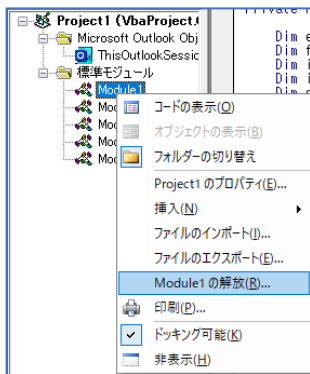
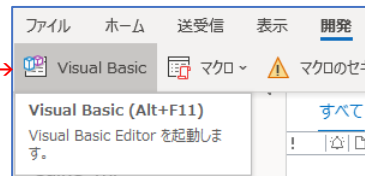


その他のコマンド→



2. マクロの削除

Visual Basic Editor を起動→



←Module1~5 の解放

3. Microsoft Outlook Objects の下の ThisOutlookSession から、本マクロを削除。

4. 必要により、マクロ自体を使えなくする。

以上で削除完了である。